

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

114

特別展 東日本大震災復興祈念

みちのくの観音さま

人に寄り添うみほとけ

福島県立博物館



重文 銅造鍍金 聖観音菩薩坐像御正躰 山形県天童市 若松寺

特別展 東日本大震災復興祈念

みちのくの

かん のん
観音さま

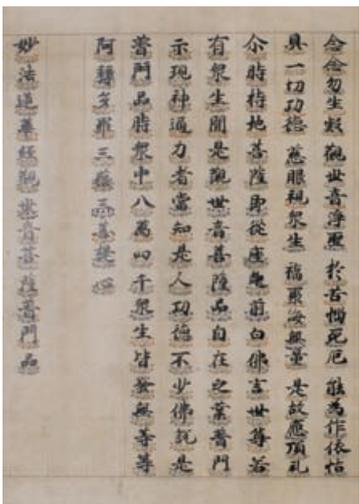
よ そ
人に寄り添う みほとけ

みちのくのくの観音さま 人に寄り添うみほとけ

さまざまな苦しみに悩む人々を救うために現れるとされる観音菩薩。観音は人に寄り添う最も身近なみほとけとして、東北地方でも古くから信仰を集めてきました。そのことをふりかえるために、東北各地の観音像、観音に捧げられた奉納品、観音ゆかりの多彩な文化財を幅広く集めて展示公開いたします。

「第1章 観音菩薩のすがた」では、東北各地の観音像を展示し、あわせて仏像を守り伝えてきた寺社や地域の歴史も紹介します。「第2章 観音菩薩への祈り」では、観音を信仰した人びとに焦点を当て、参詣・巡礼・講などのようすを、絵馬に代表される奉納品や各種資料からさぐります。

この特別展は、東北歴史博物館（宮城県多賀城市）との共同で実現しました。本展が、東北の地に伝えられた貴重な文化財や豊かな精神文化を再発見する場となり、東日本大震災で被災した方々にひと時の安らぎを与え、復興への思いを新たにすることを願っています。
※今回の「博物館だより」は、展示品の写真を多く掲載し、展示のポイントを紹介する特集号です。



観音菩薩（かんのんぼさつ）とは

「さまざまな苦しみを受けている人びとが、観世音菩薩（観音菩薩）の名を聞き、一心にその名を称えるならば、観音菩薩は、その音声を観じて（聞きとって）、人びとは苦しみから解放たれることになるであろう。」

『法華経』普門品（ほけきょう ふもんぽん）の冒頭には、観音菩薩について、このように説かれています。この後には、その名を称えれば、たとえ大火に見舞われても身を焼かれることはなく、大水に流されても浅いところに流れ着くという内容が続きます。さらには、観音菩薩が人間の住む世界に現れる際には、その身を仏の姿をはじめとする三十三身に変えることも書かれています。仏教の教えの中で、苦しむ人びとを救うために、人間世界に様々な姿で現れる存在とされた観音は、実際に広く信仰を集めるようになりました。

1. 市指定	木造	菩薩（観音菩薩）立像	宮城県仙台市	十八夜観世音堂／仙台市博物館保管	像高 138.5 cm 奈良時代末（8世紀後半）～平安時代初期（9世紀初頭）
2. 重文	木造現状素地	十一面観音菩薩立像	福島県河沼郡湯川村	勝常寺	像高 225 cm 平安時代（9世紀）
3. 県指定	木造彩色	聖観音菩薩立像	秋田県大仙市	小沼神社	像高 170.2 cm 平安時代（9世紀）
4. 県指定	木造現状古色	十一面観音菩薩立像	秋田県大仙市	小沼神社	像高 177 cm 平安時代（11世紀）
5. 県指定	木造彩色	観音菩薩立像	宮城県登米市	長谷寺／東北歴史博物館保管	像高 156.2 cm 平安時代（10～11世紀）
6.	木造素地	観音菩薩立像	岩手県陸前高田市	観音寺	像高 230.5 cm 平安時代（11世紀）
7. 国宝	彩箋墨書	一字蓮台法華経開結共 卷第八普門品（末尾部分）	福島県大沼郡会津美里町	龍興寺	幅 28.9 cm 平安時代（11世紀）

※とくに注記のない写真は、東北歴史博物館、福島県立博物館および所蔵先より提供をうけました。



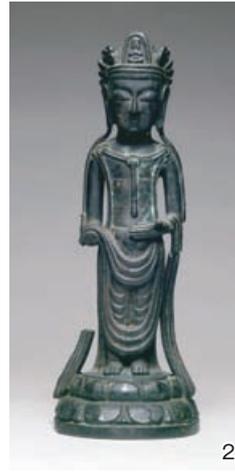
第1章 観音菩薩のすがた

木彫仏（もくちょうぶつ）

木彫仏は、文字どおり木を彫刻して制作した仏像。今回展示される観音像の中には、天台寺（岩手県三戸市）の「菩薩（観音菩薩）坐像」、長谷寺（宮城県石巻市）の「十一面観音菩薩立像」に代表される像高2mを超える巨像に、まずご注目ください。

また、今回はとくに東日本大震災の被災地域、とくに沿岸部で地震・津波被害の大きかった地域の観音像が展示されます。岩手県気仙地方で気仙三観音と呼ばれる長谷寺（岩手県大船渡市）や観音寺（岩手県陸前高田市）の観音像、宮城県牡鹿半島網地島の常春寺（宮城県石巻市）の観音像、福島県浜通り北部の泉観音堂の観音像（福島県南相馬市）などが並びます。いずれも奇跡的に大きな損傷などを受けず、これからも地域の絆として大切に守られてゆくことになった仏像が、震災復興祈念という趣旨に賛同していただき、今回特別に展示公開させていただくことになりました。

8. 県指定	木造彩色	菩薩（観音菩薩）坐像	岩手県二戸市	天台寺	像高 241 cm	平安時代（11～12世紀）
9. 県指定	木造素地	十一面観音菩薩立像	岩手県大船渡市	長谷寺	像高 236.5 cm	平安時代（12世紀）
10. 県指定	木造素地	十一面観音菩薩立像	岩手県大船渡市	長谷寺	像高 175.4 cm	平安時代（12世紀）
11. 県指定	木造漆箔	聖観音菩薩立像	宮城県石巻市	常春寺	像高 84.2 cm	鎌倉時代（13世紀）
12. 県指定	木造素地	十一面観音菩薩立像	福島県南相馬市	泉龍寺	像高 162.2 cm	弘安6（1283）年 写真提供：明古堂
13. 市指定	木造彩色	如意輪観音菩薩坐像	秋田県横手市	九品寺	像高 30.1 cm	室町時代（14世紀）
14. 市指定	木造素地	十一面観音菩薩立像	宮城県石巻市	長谷寺	像高 240.5 cm	室町時代（15世紀）か
15. 市指定	木造漆箔	聖観音菩薩坐像	山形県鶴岡市	荒沢寺正善院	像高 80.5 cm	江戸時代（17世紀）



福島・茨城・栃木三県にまたがる八溝山（やみぞさん）の観音信仰にゆかりのある十一面観音菩薩立像が、都々古別神社（つつこわけじんじや）福島県東白川郡棚倉町）に伝えられています。この仏像の台座の背面には、墨書の銘文（めいぶん）があり、天福二（一一三三）年に成弁という僧侶が造立した経緯が記されています。それによると、成弁は「三十三所観音」の霊地を修行して回り、八溝山の観音寺に三百日間参籠（さんろう）した際に、大和国長谷寺の十一面観音像にならって、この像を造立しました。この銘文の「三十三所観音」は、いわゆる坂東三十三所と推定されています。鎌倉時代には、修行の目的で、観音の霊地を巡る僧侶たちがいたことがわかります。（高橋）

コラム 三十三所巡礼の銘文のある観音像

銅を溶かして casting（いがた）に流し込み、表面に鍍金（と きん 金メッキ）を施した仏像。金銅仏の歴史は古く、日本へ仏教が伝来した六世紀から、奈良東大寺の大仏に代表される奈良時代（八世紀）頃まで、仏像の主流でもありました。

東北地方に仏教が伝わったことを示す最古の記事（『日本書紀』持統天皇三年七月壬子朔条 西暦六八九年）には、陸奥蝦夷（えみし）の僧に金銅の薬師像と観音像が下賜されたと記されています。

この時代に制作された金銅仏は、東北各地に伝来し、後世まで信仰を集めています。いずれも都やその周辺にある像と姿や制作技法が似かよっていることから、当時の都の周辺から運ばれたと考えられています。

金銅仏（こんどうぶつ）

1. 県指定	銅造鍍金 聖観音菩薩立像	青森県上北郡おいらせ町	聖福寺	像高 23.2 cm	飛鳥時代(7世紀)
2. 県指定	銅造鍍金 聖観音菩薩立像	福島県会津若松市	羽黒山湯上神社 / 福島県立博物館保管	像高 23.3 cm	白鳳時代(7世紀)
3. 県指定	銅造鍍金 聖観音菩薩立像	福島県喜多方市	福聚寺 / 福島県立博物館保管	像高 33.2 cm	白鳳時代(8世紀)
4. 県指定	銅造鍍金 聖観音菩薩立像	秋田県横手市	正伝寺	像高 23.4 cm	奈良時代(8世紀)
5. 県指定	銅造鍍金 如意輪観音菩薩坐像	山形県鶴岡市	金峯神社	像高 18.2 cm	平安時代(12世紀)
6. 町指定	銅造鍍金 十一面観音菩薩坐像	福島県東白川郡棚倉町	都々古別神社	像高 19.0 cm	平安時代(12世紀)
7. 市指定	銅造鍍金 十一面観音菩薩立像	福島県白河市	龍蔵寺 / 白河市歴史民俗資料館保管	像高 80.8 cm	室町時代(15世紀)
8. 重美	木造素地 十一面観音菩薩立像	福島県東白川郡棚倉町	都々古別神社	像高 61.4 cm	天福 2(1234)年
9. 県指定	銅造毛彫 線刻聖観音菩薩坐像御正躰	山形県天童市	来叶院	像高 23.2 cm 径 30.3 cm	平安時代(12世紀)



鏡像（きょうざう）・御正躰（みしょうたい）

鏡像・御正躰は、円形の銅板に仏像をあらわしたものの（15のみ木製）。鏡像は仏像をおもに線刻であらわし、僧侶が仏を心中に観じる修行（しゅぎょう）の本尊とされました。御正躰は、仏像をおもに立体的にあらわし、神仏習合（しんぶつしゅうごう）の思想を背景に、神のよりつく鏡と仏像とが一体化したものとわれます。ただし両者の区別は明確でないもので、ここでは一括して扱います。

東北地方には鏡像・御正躰が各地に多くまつられ、なかでも観音像が多いといわれています。東北地方で、観音が土地の神々と結びつきながら信仰されたことが背景にあるのでしょうか。（歴史担当 高橋 充）

コラム 野口英世母シカの観音信仰

「おまいのしせ（出世）にわ、みなたまけました。わたくしもよろこんでをります。なかつのかのんさま（中田観音様）にさ、まにねん（毎年）、よこもり（夜籠り）を、いたしました。」（句読点など原文の表記を一部改めています）世界的な活躍をした医学者野口英世（ひでよ）の母シカさんが、明治四五（一九一三）年に息子に宛てて書いた有名な手紙の一節です。会津出身のシカさんは、会津の中田観音や菩提寺の観音に参拝（参籠）を続け、遠く離れた息子の無事や成功を祈念していました。

大正四（一九一五）年九月、帰国していた英世や恩師の小林栄先生を伴って、シカさんは中田観音の参拝を果たします。



22

ひざまづいて観音堂の扉に額を寄せて手を合わせるシカさんの姿は、観音さまへの信仰の深さをよく表わしていて、心をうつものがあります。（高橋）

10. 重文	銅造鍍金	聖観音菩薩坐像御正躰	宮城県名取市	高館熊野那智神社／東北歴史博物館保管	径 18.4 cm	平安時代(12世紀)
11. 重文	銅造鍍金	聖観音菩薩坐像御正躰	宮城県名取市	高館熊野那智神社／東北歴史博物館保管	径 16.2 cm	平安時代(12世紀)
12. 重文	銅造鍍金	聖観音菩薩坐像御正躰	宮城県名取市	高館熊野那智神社／東北歴史博物館保管	径 15.2 cm	鎌倉時代(13世紀)
13. 重文	銅造鍍金	聖観音菩薩坐像御正躰	宮城県名取市	高館熊野那智神社／東北歴史博物館保管	径 11.6 cm	鎌倉時代(13世紀)
14. 重文	銅造鍍金	聖観音菩薩坐像御正躰	宮城県名取市	高館熊野那智神社／東北歴史博物館保管	径 11.1 cm	鎌倉時代(13世紀)
15. 重文	木造漆箔	十一面観音菩薩坐像御正躰	山形県天童市	昌林寺	径 36.5 cm	安貞2(1228)年
16. 重文	銅造鍍金	聖観音菩薩坐像御正躰	山形県天童市	若松寺	径 75.0 cm	弘長3(1263)年
17. 県指定	銅造	十一面観音菩薩坐像御正躰	宮城県大崎市	個人	径 36.7 cm	弘安2(1279)年
18. 県指定	薄銅板鍍金	十一面観音菩薩立像御正躰	福島県東白川郡棚倉町	都々古別神社	径 105 cm	室町時代(15世紀)
19. 県指定	薄銅板鍍金	十一面観音菩薩坐像および二脇侍坐像御正躰	福島県東白川郡棚倉町	都々古別神社	径 95.3 cm	室町時代(15世紀)
20. 県指定	薄銅板鍍金	十一面観音菩薩坐像および二脇侍坐像御正躰	福島県東白川郡棚倉町	都々古別神社	径 102.5 cm	室町時代(15世紀)
21. 薄銅板鍍金		聖観音菩薩坐像御正躰	青森県西津軽郡深浦町	円覚寺	径 54 cm	文明19(1487)年
22. 会津中田観音堂に参拝する野口英世と母シカ			福島県耶麻郡猪苗代町	(公財)野口英世記念会		

第2章 観音菩薩への祈り

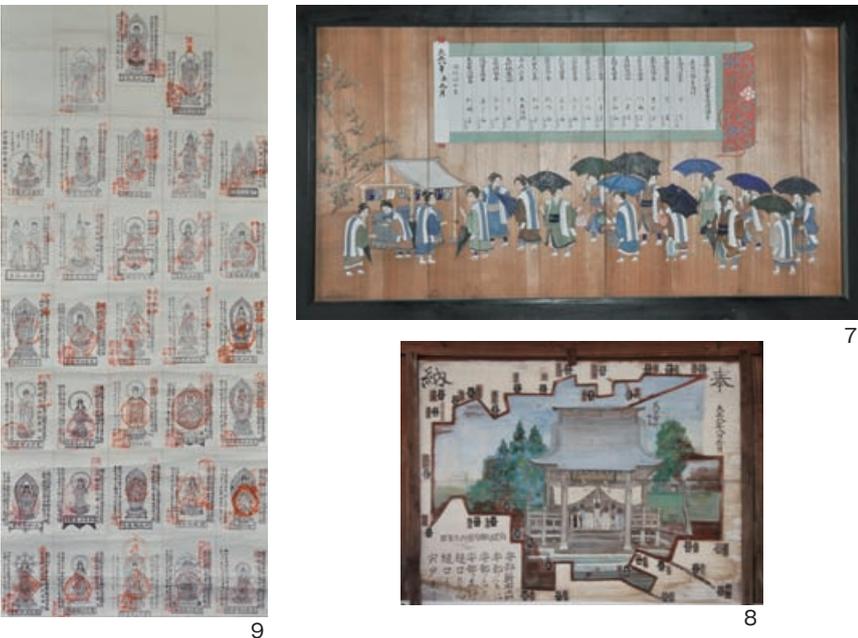
観音信仰の広がり

観音への信仰は、時代を経るにつれ武士階級や僧侶などの宗教者から一般庶民にまで次第にすそ野を広げてゆきます。観音堂への参詣や絵馬・仏具・調度品の奉納のほか、観音札所をめぐる巡礼なども行われ、代表的な霊場としての寺院が東北各地に成立していきました。それらの寺院には、古くからの観音信仰を物語る資料が数多く残されています。さらに多様な祈願の対象となる観音は、仏像や石仏、掛軸など様々なかたちでも地域に祀られ、人びとに最も身近な仏さまとして信仰を集めてきました。そのため、海岸部における海上安全祈願などのように、地域に特徴的な信仰も多くみられます。



みちのくの三十三所巡礼

観音菩薩が三十三の姿に化身して、人びとを救済するという教えから広がった三十三所巡礼の霊場も、古くは平安時代末期に成立した西日本の西国三十三所から始まり、坂東や秩父、さらには東北各地にもつくられて盛んに巡礼が行われてきました。人びとは各霊場に札を納めてめぐり、また巡礼結願の記念には様々な奉納品を残しました。巡礼の様子を描いた絵馬なども各地で見られます。



講と歌詠み

地域の観音信仰を支えてきたのは女性を中心とした観音講という組織でした。講を中心にして行われる観音堂の祭りや札所めぐりなどの際には御詠歌の歌詠みが行われ、そこには各地の三十三所霊場にまつわる伝承や風景などが読み込まれています。観音講は地域の人びとの交流・情報交換の場でもありました。特に嫁入りした女性は、そこで地域の慣習など様々なことを学んだのです。





21



16



15



22



19

特別展 東日本大震災復興祈念
みちのくの
 観音さま
 人に寄り添う みほとけ



20



18



17



コラム 郷之原の観音講
 会津若松市一箕町の郷之原では年5回、集落の女性が集まり観音講が続けられてきました。観音さまの掛軸を前に会津三十三所の歌詠みが行われ、年に一度は集落に祀られた観音さまの石仏へのお参りも行います。行事の様子は、展示室内で映像によりご紹介する予定です。(内山)

生と死をめぐる祈り
 観音への信仰の代表的なものとして、人の生や死への祈りが挙げられます。特に女性たちによる出産や子どもの成長に関する祈願が多く、観音堂などにみられる奉納品にそれが表れています。安産を願って前掛けや産着などの奉納品を借りてゆき、出産後のお礼参りには倍にして奉納するという習俗が各地でみられます。また観音堂には、千羽鶴や傘福などと呼ばれる吊るし飾りが安産・成長祈願のために奉納されました。
 さらに観音は人の死にも深く関わっています。葬儀や年忌供養の際には死者を無事にあの世へ送り届けるために三十三所の御詠歌が詠われ、また地域によっては死者の供養を目的とした絵馬が観音堂に奉納されたりしました。
 本展覧会では観音の姿とともに、このような観音をめぐる人びとの多様な祈りのかたちを、様々な資料からご紹介いたします。(民俗担当 内山大介)

1. 観音礼拝図絵馬 岩手県大船渡市 長谷寺 101×71.7 cm 江戸時代 紫雲に乗って来迎する観音菩薩に礼拝する着物の女性を描く。
2. 観音礼拝図絵馬 福島県東白川郡棚倉町 常陸寺 明治18(1885)年 来迎する十一面観音に男女が祈りを捧げる図。「女人講」による奉納。
3. 鯉口 岩手県二戸市 天台寺 径52.5×厚19.5 cm 正平18(1363)年 銘文から南北朝時代の南部氏の動向が分かる貴重な資料。
4. 観音籤 岩手県二戸市 天台寺 総高27.1×基部径21.2 cm 応永16(1409)年 白雲道山奉納。竹筒には番号・吉凶と頌句が墨書される。
5. 鬘絵馬 青森県西津軽郡深浦町 円覚寺 21.9×50 cm 嘉永2(1849)年 荒天に遭遇した船乗りが鬘(まげ)を切って無事を祈り、生還後に絵馬にして奉納したもの。
6. 法用寺縁起絵巻 福島県会津若松市 会津若松市立会津図書館 幅33×全長1173 cm 会津法用寺の十一面観音の由緒を説く縁起の写本。原本には文禄2(1593)年奥書。
7. 庄内三十三所巡礼図絵馬 山形県鶴岡市 荒沢寺正善院 133.8×76.3 cm 大正8(1919)年 着物に笈摺(おいずり)の姿で洋傘を持ち巡礼する女性たち。
8. 置賜三十三所巡礼図絵馬 山形県米沢市 火の目観音堂 60×73 cm 大正8(1919)年 観音堂に巡礼する女性を描き、周囲に置賜の各札所を地図のように配置している。
9. 最上三十三所御札集 山形県天童市 個人 108×47.5 cm 明治9(1876)年 天童市の若松寺から始まる最上三十三所の札に朱印が押され、掛軸に仕立てられたもの。
10. 信者御詠歌図絵馬 福島県田村市 堂山王子神社 116.5×158.3 cm 明治24(1891)年 神職を先頭に男女が御詠歌を詠む様子。神社へ改められた寺の歴史を物語る。
11. 御詠歌本 福島県河沼郡会津坂下町 浄泉寺観音堂 大正9(1920)年 会津の女性は嫁入りすると数名で観音めぐりに出かけ、各札所ではこれを手に歌詠みをした。
12. 当国三十三観音御詠歌絵 山形県酒田市 個人 文字の読めない人々のためにつくられた御詠歌本。庄内三十三所の御詠歌を絵で表している。
13. 鐘・撞木 福島県会津若松市 個人 昭和51(1976)年 観音講や葬儀などの際に行われる御詠歌の歌詠みで、拍子をとるために使われる。
14. 観音講図絵馬 山形県米沢市 幸徳院(笹野観音堂) 151×75.5 cm 明治9(1876)年 観音講の場面。掛軸を持つ人、飲食する男女、踊りを披露する女性を描く。
- 15~17. 傘福 山形県酒田市 長洲寺・龍沢寺・光国寺 庄内地方の観音堂や地藏堂、神社には豊穡・子宝祈願などのための華やかな傘福が多くみられる。
18. カサボコ 福島県郡山市 飯盛寺観音堂 会津地方やその周辺で観音堂や地藏堂へ奉納される吊し飾り。主に数名の女性で作られ、子供の成長などを祈願する。
19. 参詣図絵馬 福島県田村市 称名寺観音堂 53×37 cm 明治29(1896)年 小さな赤子を抱え観音堂へ参詣する女性を描いた絵馬。
20. 産着 福島県須賀川市 新田子安観音堂 観音堂の祭礼の時に身ごもった女性が安産祈願に借りていく。また、腹などにかけて寝ると子宝に恵まれるともいわれる。
21. ムカサリ絵馬 山形県天童市 若松寺 昭和17(1942)年 山形県村山地方では未婚で亡くなった人の供養のため、架空の人物との婚礼の様子を描いた絵馬を奉納する。
22. 参詣図絵馬 山形県天童市 若松寺 昭和17(1942)年 若松寺では参詣・巡礼を描いた絵馬に死者の戒名などを記し、供養の祈りを込めて奉納した。

特別展

※特別展料金が必要です

秋の特別展「東日本大震災復興祈念 みちのくの観音さま」人に寄り添うみほとけ」
会期 11月1日(土)～12月14日(日)

特別展開運行事

※展示解説会 は特別展料金が必要です

展示解説会

日時 11月1日(土)・23日(日)祝、12月14日(日)
13時30分～14時30分

会場 福島県立博物館 企画展示室ほか

講師 福島県立博物館学芸員ほか

会津美里町教育委員会 歴史講座「観音信仰と会津美里町」

日時 11月6日(木)10時～12時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 福島県立博物館学芸員 高橋充

関連講座「観音さまのふるさと」会津の観音講と安産祈願」

日時 11月8日(土)13時30分～14時30分

会場 福島県立博物館 視聴覚室

講師 福島県立博物館学芸員 内山大介

関連講座「観音さまのふるさと」東日本大震災と観音さま」

日時 11月11日(火)13時30分～14時30分

会場 福島県立博物館 視聴覚室

講師 福島県立博物館学芸員 高橋充

関連講座「観音さまのふるさと」酒田の傘福・会津のカサゴ」

日時 11月22日(土)13時30分～14時30分

会場 福島県立博物館 視聴覚室

講師 福島県立博物館学芸員 内山大介

東北地方民俗学会同研究会・日本民俗学会談話会シンポジウム「めぐりと民俗信仰」

日時 12月6日(土)13時～16時30分

会場 福島県立博物館 講堂

関連講座「観音さまのふるさと」東北各地の観音札めぐり」

日時 12月11日(木)13時30分～14時30分

会場 福島県立博物館 視聴覚室

講師 福島県立博物館学芸員 高橋充

テーマ展

※常設展料金でご覧いただけます

「ふるさとの考古資料5〔富岡町〕遺跡探訪」

会期 6月17日(火)～平成27年5月10日(日)

「けんばくの宝2014」

会期 12月20日(土)～平成27年2月1日(日)

ポイント展

※常設展料金でご覧いただけます

「読み解き」戊辰戦記絵巻物」

会期 4月19日(土)～平成27年2月1日(日)

「ふくしまの火災土器」

会期 7月23日(水)～平成27年3月15日(日)

「これも弥生土器!」

会期 7月23日(水)～平成27年3月15日(日)

「王様の玉飾り」

会期 9月2日(火)～平成27年3月15日(日)

「約束の音色」聖武と嵯峨」

会期 9月2日(火)～平成27年3月15日(日)

「福島を空から眺めてみよう」

会期 9月13日(土)～11月7日(金)

「富岡層の貝類化石」

会期 10月11日(土)～11月20日(木)

「会津藩校日新館の教育」

会期 10月18日(土)～11月14日(金)

「桶づくり職人の道具」

会期 11月6日(木)～12月10日(水)

「地球黎明期の岩石」

会期 11月21日(金)～12月26日(金)

「火をめぐる昔の道具」明かりと暖房」

会期 12月18日(木)～平成27年2月4日(水)

「火鉢となった版木たち」

会期 12月27日(土)～平成27年1月30日(金)

館長講座

「はじまりの東北学」⑧

日時 11月20日(木)13時30分～14時30分

会場 福島県立博物館 講堂

講師 館長 赤坂憲雄

「はじまりの東北学」⑨

日時 12月18日(木)13時30分～14時30分

会場 福島県立博物館 講堂

講師 館長 赤坂憲雄

講演・講座

※は要申込

○考古学講座

「古墳の壁画を描いてみよう」

日時 10月25日(土)10時～15時

会場 福島県立博物館 実習室

講師 学芸員 荒木隆

○民俗講座

「ふくしまの農の神さま」

日時 12月13日(土)13時30分～15時

会場 福島県立博物館 視聴覚室

講師 学芸員 佐々木長生

○自然史講座

「鶴ヶ城の野鳥」

日時 11月16日(日)13時30分～15時30分

会場 福島県立博物館視聴覚室 鶴ヶ城公園

講師 野鳥研究家 古川裕司さん

○ギャラリートーク

「展示資料から見る古代のふくしま」④

日時 11月3日(月)祝 13時30分～14時

会場 福島県立博物館 総合展示室「古代」

講師 学芸員 荒木隆

「テーマ展「ふるさとの考古資料5〔富岡町〕遺跡探訪」展示解説会

日時 11月9日(日)・12月14日(日)

日時 11時～11時30分 14時30分～15時

会場 福島県立博物館 部門展示室「考古」

講師 学芸員 荒木隆

ミュージアムイベント

「クリスマスジャズライブ」

日時 12月20日(土)13時30分～15時

会場 福島県立博物館 エントランスホール

出演 羽賀トリオ at ナルミ

共催・後援事業

「中央大学学術講演会「縄文時代の地域間交流」

「東北・関東の遺跡調査から」

日時 11月16日(日)13時30分～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 中央大学文学部教授 小林謙一さん

「会津史談会公開文化史講座「会津の和算」

日時 11月27日(木)13時30分～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 学芸員 船尾武彦

「2014年放散虫研究会会津大会普及講演

「ミクロな化石が語る地球環境の変遷史」

日時 11月30日(日)13時30分～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 宇都宮大学農学部教授 相田吉昭さん

※要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。
*その他、行事等の詳細につきましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

常設展無料開放日

11月3日(月)文化の日

特別展無料開放日(ふくしま教育週間のため)

11月1日(土)～11月7日(金)ただし、休館日は除きます。
※小学生・中学生・高校生のみ

10月～12月の休館日

10月 6日(月)・14日(火)・20日(月)・27日(月)

11月 4日(火)・10日(月)・17日(月)・25日(火)

12月 1日(月)・8日(月)・15日(月)・16日(火)・22日(月)・24日(水)・28日(日)・31日(水)

特別展の巡回情報

この特別展は、東北歴史博物館

(宮城県多賀城市)との共同開催

で、巡回展となります。会場、会

期は、左記の通りです。

・福島会場

平成26年11月1日(土)～12月14日(日)

・宮城会場

東北歴史博物館(宮城県多賀城市)

平成27年1月24日(土)～3月12日(木)

宮城会場の詳細については、東北歴史博物館(TEL

022-368-0101)までお問い合わせください。

この特別展は、文化庁「平成

26年度文化芸術振興費補助金

(地域と共働した美術館・歴史

博物館創造活動支援事業」の

交付を受けて開催します。

